

8月26日から、2学期が始業しました。夏季休業中は、事故もなく、健やかな笑顔で登校してきてくれて、一安心いたしました。

2学期が始まるにあたり、より一層意欲をもって学んでほしいと願い、始業式にて次のように話しました。

2学期の始まりに際して、私からお話をします。

みなさんは何のために学ぶのかと、考えたり、人に聞いたりしたことはありますか。

答えは人それぞれ、様々ありますが、わたしはこう考えます。

分からないことを分かるようにするため

分かることをさらに深く分かるようにするため

その分かったことを自分の生活に活かすため

その分かったことを自分以外の人の生活に活かすため

みなさんは「ノーベル賞」を知っていますか。

ノーベル賞を作ったアルフレッドノーベルはダイナマイトを発明した人でもあります。

彼は学習して得た知識と経験したことを使って、ある時ダイナマイトという爆弾を発明しました。
150年も前のことです。

ダイナマイトは、堅くて大きなものを安全に爆発させることができ、

工事のときなどに使われるなど、技術の発展に素晴らしい功績を残しました。

ノーベルはまさに、分かるようになったことを自分以外の人の生活にまで生かすことができた人です。

しかし戦争で、このダイナマイトが兵器として扱われ、多くの人の命が奪われました。

そのためノーベルは素晴らしい発明者から一転、「死の商人」と呼ばれるようになってしまいました。

それをノーベルは悲しく残念に思い、自分の死が近いことを感じ取ると

世界中の科学や文学、平和のための活動など様々な分野の発展の力になろうと

「ノーベル賞」を創立し、ダイナマイトの発明で得た大変多くの遺産をそれに注ぐと遺言に残し

ました。

そしてノーベルの死後、ノーベル賞は120年に渡って、大きな功績を残した人たちに賞を捧げ、全人類の技術の発展や平和の推進に尽くしています。

さて、幼いノーベルが目前にある学習を嫌がって、遊んでばかりいたら、ダイナマイトは発明できたでしょうか。

そして、図らずも自分の発明したものが人を殺めるのに使われてしまったことを知ってせめてもと、その後の世界で頑張る人たちを励まし支える賞をつくろうと決意しなければ、頑張る研究者や活動家を称え、励ますことができたでしょうか。

「何のためにするのか」を考えて躊躇するのではなく、「まずすること」。
この大切さをノーベルの姿から学びます。
し続ける中で、する意味を身をもって知るときがあります。

何のために学ぶのか。
分からないことを分かるようにするため
分かることをさらに深く分かるようにするため
その分かったことを自分の生活に活かすため
その分かったことを自分以外の人の生活に活かすため

私も長く過ごしてくる中で、身をもってこれを知った瞬間があります。

今日から2学期が始まります。
これからの日々の中で、皆さんに「まずすること」を
そして「分からないことを分かるようにすること」を大事にしてくれればと考えています。